

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 3月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500131		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい八本松		
所在地	広島県東広島市八本松東5丁目8番34号 (電話) 082-427-3339		
自己評価作成日	平成25年2月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3492500131-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年3月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

- ・ “その人らしい生活” 作りを基本にし、一年間の事業計画のもと具体的な実践を目指して活動している。
- ・ 小規模の施設の良さである柔軟な機動力を発揮し、いろいろな行事を行うことを積極的にしている。
- ・ “好縁会” の理念を実践していける職員になれるよう研修の参加に力を入れていきます。

☆利用者・家族・職員みんなの笑顔をつくると。
個別ケア・地域貢献・チームワーク

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、医療法人に属する1階建ての平屋を活用した1ユニット（定員9名）である。関連法人グループが県内にあり、常に連携及び協力体制がある。職員は、理念の実現に向け、毎年度の目標を掲げ、介護の基本姿勢を確認、自己点検を行いながら利用者一人ひとりのペースで生活ができるように環境調整に努めている。本人の居場所で”その人らしい生活”が実現・継続できるように利用者本位・本人の思いを汲み取り、きめ細かいサービスを提供している。日々の生活でも個々の役割があり、職員と利用者が協力しあう関係づくりができています。平成25年1月より、管理者の交替があり、地域の方々と顔馴染みの関係づくりや保育所などとの協力関係に積極的に関わり利用者の笑顔を増やす取り組みを今以上に深めたいと思っている。家族団欒な雰囲気であり、居心地良く生活されている様子が伺えました。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念と共に、事業所独自の理念・目標を掲げ、職員の共通認識としている。	法人理念を土台に、毎年度には事業計画及び事業報告をしている。法人グループ内で各自の事業所の目標を示し、目指すべき方向性が打ち出されている。職員は常に「どういうふうにしたら利用者に喜んでいただけるか」を考え、各職員個々の方針や目標を示し、職員全員が意識しながら支援をされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	近所の方に職員からあいさつをするよう指導したり、地域の清掃活動に参加したりしている。また、運営推進会議に地域の代表の方に参加いただいて地域とのつながりを広げている。今後は近隣の保育園との交流を深めるなど、地域との交流を深めていきたいと考えている。	日々の関わりの中で、挨拶を交わしたりしている。地元秋祭りの開催も、事業所前の園庭へ神輿も来て頂いている。ボランティア（手品・フラダンス・コーラスなど）の訪問もあり、利用者の笑顔を増やす取り組みを行い、事業所として孤立しないように、地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所内の行事等にご家族やボランティアの方にも参加していただき、時間の共有をしてもらっている。できれば、今後は地域で認知症に関する勉強会や介護の講習など行っていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	できる限り、運営推進会議の内容を回覧し、全職員に通知し、サービス向上に反映するようにしている。会議内容については、各家族にも通知している。	介護保険課や利用者代表及び家族代表、地元区長の参加により開催されている。現状報告をする中、随時連携を取り合い、地域情報やアドバイスを頂いている。会場は、事務所で実施しているが、今後は、参加者の皆様に利用者の暮らしぶりや、よりホームを知って頂く目的で、リビングで行う方向で考えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議等、定期的に市の職員と交流を持っている。日頃から、介護保険に関して、また運営等についても疑問点や不安な点など相談し回答を頂いており協力関係を築いている。	法人の広報誌を市へ送付している。市が主催されている、事業所連絡会に参加され、他の事業所と情報交換や地域連携を図っている。市の担当者は、運営推進会議に参加され、利用相談やサービス調整について連携を図っている。各機関との随時連携を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>月に一度介護アドバイザーを招き、研修を行ったり、内外の研修を通して、身体拘束に対する理解を高めている。できる限り開放的な雰囲気大切に、施錠しない時間を設けている。</p>	<p>玄関は安全面を考慮して、オートロック式を活用しているが、できる限り開放的な雰囲気を大切に、施錠しない時間を設けている。法人で、介護アドバイザーを配置し、毎月研修会を開催している。事例に基づいて身体拘束が回避できるように、具体的な介護方法を学ぶ機会を設けている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会などへ、積極的に参加し、その後事業所において勉強会、伝達研修等を開いている。またヒヤリハットなどを通して、小さな事でも見過ごさない体制作りをしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員同士で情報交換をすることはあるが、学ぶ機会は十分ではない。今後は研修の機会を持つようにしたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に説明し、同意を得ている。また、家族会等を開催し書類と一緒に解説しながら、不安・疑問点に対応した説明を行い、理解を深めるよう努力している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者が話しやすいよう利用者目線での傾聴に努めている。事業所に苦情処理担当を設けたり、電話や面会時にご要望をいただき、速やかに朝礼等で全職員に通達している。ミーティングを通して話し合い、改善している。</p>	<p>日常で変化などがある場合は、その都度連絡している。毎月請求書を送付する際に、担当の職員がホームでの生活状況を手紙で報告している。家族訪問時や随時、担当の職員が話し合いをする場面を設け、生の声を聞くよう努力され、それらの意見を運営に反映している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>責任者会議や普段のミーティング、普段の会話などから、意見や提案など取り入れるよう努めている。</p>	<p>年2回のチャレンジシート（目標及び評価）を活用し、個別面談をする機会を行っている。日々の支援で疑問などあれば、即話し合いを行っている。個々の職員からの提案なども取り入れ、管理者は常に職員が働きやすい環境整備に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>チャレンジシートの導入で、個人の目標やその成果、それに応じた評価を行い、職場環境・条件の整備に努めている。また、法人内におけるマイスター試験を実施し、職員の向上心を発揮できる体制をつくっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人研修やスキルアップのため、法人内外の研修に積極的に参加している。また、法人内のマイスター試験の導入等、職員の力量も把握するよう努めている。法人内研修で、技術の向上への幅広い対応もしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内の他グループホームとの連絡会議や研修会等での情報交換。他法人の同業者との交流はまだ十分でない。訪問等交流を深めていければと思う。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者の担当を決め、日常生活に積極的にかかわり、信頼関係を築けるよう努めている。また、アセスメントを十分にを行い、スムーズな入所ができるように努めている。事前の面談を基本としている。</p>		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>電話や面会、手紙、アセスメントなどを通して、できるだけ受け止める努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>介護支援専門員を中心に適正な社会資源の紹介も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日頃から、野菜の皮むきや食器洗い、洗濯たたみなど一緒に行い、家庭のような関係を築いている。また、利用者に決めていただくことも大切にしている、時間に縛られない生活づくりを目指している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時の対話や、電話連絡、毎月手紙を送っている。また、事業所内の行事にも参加いただけるよう努めている。ご家族を通して地域の催しにも参加していただくこともしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>昔からの友人や、親戚の方が面会に来られたり、歯科等かかりつけ医への受診。地元にお墓参りに帰られるなど、家族の協力を求めながら行っている。</p>	<p>興味や関心事、日々の関わりから思い出のある場所の把握や、本人が望まれる場所へ行くために、担当職員が状況把握している。家族の協力を頂きながら、詩吟教室への通いや墓参りなどされている。実施するなか、利用者から笑顔や表情が出るようになってきている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しがちな利用者リビングにお誘いしたり、利用者間に職員が介入することで、関係が築ける様支援している。また、アクティビティの機会を利用し交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も住み替え先の施設に職員が面会に伺ったり、必要に応じて情報提供をしたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを通して、家族や本人の想いを把握し尊重している。意思疎通困難な方の想いの尊重は難しいが、生活暦や、日頃の表情等から汲み取るよう努力し、家族の想いと共に意向の把握をしている。	以前の生活や住環境に近づけるようにしている。習慣や生活歴、趣味などを把握し、個々の言葉や言動から要望を聞き出すように努めている。日々の関わりの中から利用者の変化や真意をていねいに把握していくように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味などをお聞きし、入居前の住環境に近づける様努めている。また、なじみの家具など、お持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、申し送りや定期的なモニタリング等を行いながら、現状把握に努めている。また、各担当者が中心となってアセスメントも行っている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>面会時や電話の時等で、ご家族の意向も合わせてお聞きし、本人・看護師・管理栄養士・介護スタッフ・計画作成担当者などより多くの専門職を交え、現状把握やニーズ支援方法等検討し、介護計画の作成をしていくよう努めている。</p>	<p>本人の状況をより詳しく知るために、事業所独自のシートを活用し、状態把握に努めている。介護計画についても、具体的な内容となっている。カンファレンスにて評価し、情報の共有を図り、統一した支援に心掛けている。楽しみなどがもてるように、意欲が喜びに繋がるように工夫している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活記録や個別記録を記入し、現状把握や情報共有を行っている。そういった情報を積み重ねて、モニタリング時や担当者会議の時に有効に見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム内での生活に終始することなく、近隣美容室の利用や訪問美容室の利用、近隣歯科医院の受診や往診など、ご本人様の状態に合わせて必要な支援を調整して提供できるように配慮している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>敬老会などの行事にはボランティアによる色んな催しを行っている。また地域で参加される行事などにも出来る限り参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所時に意向を聞き、希望されるかかりつけ医の選択をして頂いている。母体法人クリニックと24時間連携している。また、他の科に受診の場合、往診に来ていただいたり、紹介状にて通院されている。</p>	<p>週1回の往診体制や歯科の往診体制もある。治療経過の記録も丁寧に記録管理され、情報を共有しながら適切な医療が受けられるように支援している。母体法人の医療クリニックと24時間の連携や夜間時は、当番で看護職員への連絡体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携加算を行っており、より密度の高い支援をしている。週に1回、母体法人の看護師が当事業所に来られ、状態を把握している。入居者の日頃と違った様子を気軽に報告できる関係づくりによって、異変の早期発見につながっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時情報提供するとともに、面会等を行い、現状把握と退院時の受け入れについて病院関係者やご家族と積極的に連絡を取るようになっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>医師、看護師、家族、職員でカンファレンスを持ち、説明、情報の共有、今後の方針など話し合い、支援できるようにしている。</p>	<p>終末ケアの経験を生かし、事業所としての方針が決められている。本人、家族の希望に沿いながら、主治医と話し合いを行い、今後の方針を決めている。ホームとして最大限可能な支援を家族と十分に話し合いをもち、職員全員その対応方針を共有し支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故時に夜間待機ナースに連絡が取れるシステムを導入している。応急手当や初期対応に関しては、主治医より指示がでている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署の職員の方からの協力の下、利用者・職員で避難訓練をしている。</p>	<p>利用者参加の下、訓練を実施し意識を高めている。定期的にコンセント周囲の清掃などを行い、普段から火元を出さない取り組みをされている。同法人グループ全体での協力及び連携体制が整備されている。災害時には、近隣の方が頼りになるため、今後は、近隣住民との繋がりを、連携をより深めたいと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇・マナー等の法人内研修に参加するとともに、声掛け方法やプライバシーの確保・人格を尊重した対応の方法を実践するようにしている。	法人内の研修（基礎研修・アドバイザー研修）を定期的に受けられている。尊厳やプライバシーを守るために、職員は常に相手の立場に立ち考えながら対応している。上から目線とならないように言葉掛けにも、十分気をつけた対応をされている。笑顔を大切にし、安心して頂くことを第一に考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が自身の想いを表しやすい場づくりや、関係づくりを行っている。また、拒否される事に関しては強要しない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースに合わせるよう心がけている。おおまかなスケジュールはあるが、日々入居者の状態も変わってきているので、全体の様子を見ながら、希望を聞いたりして職員が変容して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	必要に応じて、家族に衣類等の補充や、理髪店に依頼し、理髪の出張サービスをお願いしている。また、その日の洋服などは声かけをしながら、自己決定を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきなど、職員と一緒にいたり、会話しながら一緒に食事を楽しんでいる。メニューに関しては、入所者の好きなものや、食べやすい物を取り入れるようにしている。	月1回の体重測定を実施し、個々の栄養摂取量に見合った食事量である。食事時の正しい姿勢を補うため、下腿長（足の長さ）を測り、本人の身体にあったイスも準備されている。野菜の皮むきなど、食事の準備、調理と利用者の個々の能力に応じて、一緒に食事づくりをしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>入居者ごとに工夫して，脱水や便秘にならないように工夫を職員全員で取り組んでいる。また，体重の変化や栄養状態・疾患等の把握に努め，管理栄養士からの助言や指導を受けながら，取り組んでいる。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，義歯洗浄，うがい，ハミンググッドを使用し，口腔ケアを行っている。また，内部研修にて，適切な口腔ケアの仕方についての研修を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを考え，時間を目安にトイレ誘導をしたり，入所者が醸し出すサインなど見過ごさないよう，努力している。最小の排泄介助。そして，自立に向けて，職員全体で取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握して，トイレで排泄できるように支援している。適切な排泄支援により，紙パンツから布パンツへの移行を図り，少しでも紙おむつなどの費用負担軽減に取り組まれている。脱水を防ぐ取り組みとして，個々の1日の水分量の目安やゼリーなどで工夫している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>本人の排泄リズムを把握し，医師と連携しながら，適度な運動，消化の良い食事，具体的には，朝のおやつ時のヨーグルトなど排泄を促しやすい状態づくりに気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>介護体制の事も有り，だいたい，午後3名程度，ゆっくり入浴していただくようにしている。椅子の位置や，使う手すりの位置・声かけなど個々に応じた介助をしていっている。入浴時間は完全に自由とはいえないが，体調や気分によって変える等対応している。</p>	<p>週3回の入浴をしている。一人ひとりの状況を把握するなか，出来るだけ希望に沿うように支援している。少しでもゆっくりと入浴が楽しめるように，時間については午後からの入浴を実施している。温泉気分を味わって頂くために，適宜入浴剤の活用もされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>その日の状態などにより、昼夜逆転することもあるが、日中適度な運動を行うなど努力している。起床時間や消灯時間は概ね決められているが、日々のその方の状況に応じて対応している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬は職員が管理している。処方の際は、医師・薬剤師から説明を受け、服薬の際にも確認し、飲み込まれるまで見守っている。服薬で状態が変わった場合などは、看護師に報告し、医師の指示を受けられる体制を作っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>洗濯たたみや雑巾作り・掃除など個々に合わせた形で役割を担っていただいている。また、一緒に外に散歩にでかけたりして気分転換の支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族との外出や外泊は、届け出いただくことで自由に行なっている。頻繁ではないが、花見や紅葉狩りなどの季節の行事、その他日常生活でドライブに行ったり、近くのスーパーに買い物に行ったりしている。</p>	<p>ホーム玄関前には、ベンチが用意されている。ホームの敷地を有効利用して、気候が良い時は、憩いを兼ねた散歩や日向ぼっこをしている。職員は、事前に行き先場所の下見を行い、年間の外出計画を立案している。ドライブ、買い物などを通じて気分転換、楽しみを増やす取り組みをされている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族管理を基本とし、ご本人が持たれているとしても、面会時などで所持金を確認していただいている。個々の力量に応じて、保管管理できるように図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話など出来る方にはしていただいているが、十分ではない。代筆やメッセージカードなどの作成など介護職員と一緒に作成し、ご家族などに送る支援は行なっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>いずれにも段差がなく、カーテンの色などにも配慮している。また、季節に応じて壁画を貼ったりと季節感を演出している。また、温度・湿度の管理にも気をつけながら環境整備を行なっている。</p>	<p>利用者と一緒に話し合っ、利用者の作品や季節感のある壁面の飾り付けを作成している。適度な採光が取り入れられ、居心地良く、一人ひとりが我が家のように生活されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテレビの配置など、職員で工夫改善している。皆様それぞれの居場所を確保できるよう支援している。その結果として、居間で過ごされることが多い。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には本人の馴染みのものを置いていただいている。また、思い出の写真など飾っている。状況によって、職員で検討しながら、安全に過ごせるよう室内の家具の配置替えなども行なっている。</p>	<p>入居時に、本人及び家族と相談しながら自宅で使用していた、馴染みの物品などを自由に持ち込まれている。自宅との環境変化を感じないような居室作りに配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>個々の力や能力を生かし、無理のない自立支援を行っている。また、トイレや居室などは、分かりやすく大きく表示したり、夜間は足元灯を設置したりとできるだけ自立した生活を送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい八本松

作成日 平成25年4月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時における対策として、地域の方との連携をより具体的にしていきたい。	地域の方が気軽に立ち寄れる施設になっていきたい。開放的な施設づくりにしていく。	地域の方を呼び入れる形の祭りを開催したい。それを足掛かりにして、地域の方に相談される施設になっていく。	平成25年4月～平成25年12月
2	49	個別に楽しみといえる外出支援が達成できない方がいる。	ご本人のニーズに沿った外出支援がもっとできる。	移動困難な方においても、ご本人にとって無理のない動きで、ご本人が行きたがっていた場所へお連れする。	平成25年4月～平成25年12月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。